

# 30amD-186

抗肥満作用に対する大柴胡湯構成生薬の関与度

○林 忠紘<sup>1</sup>, 中島 賢治<sup>1</sup>, 和田 篤敬<sup>1</sup>, 鈴木 敏恵<sup>2</sup>, 工藤 秀機<sup>2</sup>, 左雨 秀治<sup>3</sup>  
(<sup>1</sup>小林製薬 中央研, <sup>2</sup>文京学院大 保健医療技術学部, <sup>3</sup>東京医歯大 難治疾患研)

【目的】大柴胡湯(DST)は、8種類の生薬(柴胡、半夏、生姜、黄芩、芍薬、大棗、枳実及び大黄)から構成される漢方薬であり、脂質代謝改善作用及び抗肥満作用を有することが報告されているが、これらの作用に対する各生薬の関与度については不明であった。そこで、本研究では各生薬の関与度を明らかにするために、DSTから各生薬を一味ずつ除いた一味抜きエキスを用いて、DSTエキスとの比較検討をマウスへの投与実験で行った。

【方法】ICR 雄性マウスを用いて、正常食群、高脂肪食(F2HFD2)群、DSTエキス群(F2HFD2+DST1%)、一味抜きエキス群(F2HFD2+一味抜きエキス 1%)8群の合計11群により実験を行った。投与期間は4週間とし、各週、食餌量及び体重測定を行った。試験終了時に血清中のトリグリセライド(TG)値、総コレステロール(Cho)値等を測定した。更に肝臓組織標本の作製及び肝臓組織中の脂質の測定をした。

【結果】(1) DSTは肥満マウスの体重、肝臓内総Cho値、血清総Cho値及び血清TG値を有意に低下させた。(2) DSTの体重増加抑制作用には、柴胡、黄芩、生姜、芍薬、枳実及び大黄の各生薬が主として関与していた。(3) DSTの肝臓内総Cho値低下作用には、黄芩及び大黄の各生薬が主として関与し、血清TG値低下作用には、柴胡、黄芩、大棗、枳実及び大黄の各生薬が主として関与していた。

【考察】DSTは食餌性肥満マウスに対して抗肥満作用を示し、肝臓内総Cho値、血清総Cho値及び血清TG値を減少させたことから、脂質代謝改善作用が確認された。一味抜きエキスを用いた解析から、DSTの構成生薬である柴胡、黄芩、大黄が脂質代謝改善作用に関与しており、抗肥満作用には柴胡、黄芩、生姜、芍薬、枳実及び大黄が重要な働きをしていることが示唆された。